

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第710号（四月号）表紙

- ・春の季語：「燕・つばめ」（つばめ）（仲春・動物）
- ・来月号（五月号）の兼題です。



燕は春の半ば、南から日本に渡ってきて、秋、南へと去る。その間、家の軒に巣を作り、町や田園を飛び交い、雛を育てる。雀とともに人間の生活圏の中にいる野鳥。人の住むところ、燕がいる。燕が街なかを飛び交い始めると、いよいよ春もたけなわの感じとなる。

子季語には、つばくろ、つばくらめ、^{つばくろ}乙鳥、^{つばめ}玄鳥、等があります。

季語「燕・つばめ」を詠んだ有名俳人の句に以下のようなものがあります。
なお、「燕」と書いて「つばくろ」と読んだ方がリズムが整うことがあります。
3句目および4句目がそれに該当します。五七五の定型になります。

- ・蔵並ぶ裏は燕の通ひ道／野沢凡兆
- ・藍壺に泥落したる燕哉／正岡子規
- ・燕のゆるく飛び居る何の意ぞ／高浜虚子
- ・燕やつばめ返しを徐ろに／松本長
- ・^{つばくろ}乙鳥はまぶき鳥となりにけり／中村草田男
- ・春すでに高嶺未婚のつばくらめ／飯田龍太
- ・つばめつばめ泥が好きなる燕かな／細見綾子

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（5点以上）

・前月の709号で清記表に記載された17名の119句のなかから互選で高得点を獲得した句です。

- ・老いて尚学ぶ楽しみ室の花／恵吾 6点
- ・立春の影やはらかき木立かな／緑汀 6点
- ・早春や妻に肩貸す野辺の道／碧亥 5点

*以下は4点句（惜しい！もう少しで5点）です。

- ・駅前ハシャッター通り冬すみれ／要
- ・図書館にカレーの匂ひ冬ぬくし／緑汀
- ・暴飲の夜を諫めし蜆汁／甲舟
- ・埒も無き老いの繰り言みずっぱな／碧亥
- ・玻璃越しの淡き光や水仙花／温州
- ・海峡を分ける岬や春浅き／恭行

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成 約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先；
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）